

婦人会夕張支部総会

「育む」親心を深め 次代へ信仰を繋ぐ

9月20日午前10時、婦人会夕張支部は第51回総会を開催した。会員75名、総勢122名が道内各地から参集して、十二下りのてをどりまなびを会員総立ちで勤め、更なる婦人会活動の奮起をお誓いした。

続く総会式では、支部長が本会祝辞を代読し、自らも挨拶。今年の11月におおぼで4年ぶりに開催される女子青年大会に触れ、教祖140年祭に合わせた開催となった今回を大切に、教会に繋がる女子青年さん、つまり皆様のお子さん、お孫さん方に、改めて最後まで参加のお誘い、声かけを続けて下さるようお願いした。

大教会長様は祝辞で、日頃の婦人会活動と総会当日までの準備を



お勞い下さり、「みちのだい育み塾」は素晴らしいと述べられた。「育む」という言葉は、親鳥が自分の羽でひなを包み込む「羽ぐるむ」からきている。親が子を、寒さや敵から羽で包み込んで守り、命をかけて大切に育てる様子がその意味する所であり、「育てる」という言葉は、

栄養や教育を十分に与えて、大きく成長させ、一人前にするとの意味がある。二つの言葉は、字は同じだが、非常に深い愛が秘められている。婦人会員の皆さんが、自ら「みちのだい」を目指して心育つ努力を重ね、未来を見据えて新たな会員を育み、育てる決意がこの活動に感じられ、大変頼もしいと話された。

誓いの言葉では、竹田愛子委員長（馬追）が、歴代の先輩方の後を私たちも追いかけて、教祖のみ教えを身近な人や、次の世代へ繋いでいきたいと述べ、最後に全員で婦人会歌を声高らかに斉唱し、総会式は幕を閉じた。

続く記念行事では、2名の会員による感話が行われ、中右久恵会員（理喜道）と、土屋知子委員長（北網）が壇上に登った。二人の弁士は、家族の身上をお世話し、見守った経験や、おたすけ先の方々にお見せ頂いた出来事を通して、自身の心や、信仰姿勢について深く考え、親神様の思いに近づく努力を、反省も交えて話され、会場の人々は、弁士の言葉に共感し、笑い、泣き、勇み心を分けて頂いた。



土屋知子（北網）



中右久恵（理喜道）

金に寄付され、雨模様の中も、婦人会らしい明るさで開催出来た事を、心からおやさまにお礼申し上げます。（藤田支部長）

「教養掛おてふり勉強会」 毎月14日

夕張大教会教養掛では「教養掛おてふり勉強会」を毎月14日、神殿で開催し、互いにおてふりの学び合いをしています。勉強会では『おてふり概要』に基づいてなるべく表現に忠実に進めるよう努めていますが、先日の本部教養室主催の『教養掛おてふり研修会』に参加し、新たな気づきもありましたので、ここに記します。

この『概要』はおてふりの「教科書」ではなく、手助けとなる「参考書」という位置づけだと話され、形や細かな数値にとらわれすぎず、老若男女誰でも振れるようにという親心があり、幅があるものであること、また『概要』通りではない申合せ事項もあり、自分の伝え方を反省しました。

また、おてふりを繰り返す互いに学ぶとき、自分自身の手振りにある「癖」を知るきっかけとなります。気づかずにしてしまっている、間違っている手振りが出てくるんです。

研修会からの帰路、知り合いの教養掛との話しの中で、「外国の方

におてふりを教える際は言語の壁もあるため、教える側の形を見たまま真似て覚えらる。だからこそ、自らの癖がそのまま（もしかするとより大きく）うつってしまったので大変驚いた」と話され、普段から癖つかぬように意識しながら学ばねばと思います。

研修会の最後に先生は、「お手を振っているときはいつも教祖が傍で見てくださっている」「おつとめにより命が切り替わり、人が助かり、世界平和を願えるんだ、という喜び心で」「私たちが陽気ぐらしを体現させていただいている瞬間」ということを修養科生にお伝えし修練して頂きたいと話され、なるほど納得しました。

細かな部分の申し合わせとして記憶していることを少々、・歩幅は自分の足のサイズを「半歩」とし、「一歩」は倍ではなく、少々大きく踏み出す。また、奉仕者同士で互いに歩幅を合わせる気持ちを重視する

・高さを決めて止めすぎない「肩の高さ」などの言葉を使う際も、その高さで固定せず高さまで上げた後の幅（ゆとり）をもたせる。

などなど。毎月14日の勉強会は、「なぜ」「いさみ」などの予備動作を復習し、その月の下りを練習しています。（11月は十二下り目）どなたでも参加できます。（藤田）



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

新ホームページ
bariten.com



サイトアドレスを
変更しました

育ち育てる みちのだいとして

9月20日
婦人会夕張支部総会
4p に記事



婦人会総会の当日、男性は裏庭の残材釘抜、戸の修繕、片付けなどのひのきしんを行った

合祀祭の終了後には「教区功労者を偲ぶ会」が開かれ、元主事や元役員の方々も多数参加され、前会長との出会いのエピソードや、教示いただいたお言葉などをユーモアを交えて語られる方もおられ、久しぶりの再会を喜びつつ、思い出話に花を咲かせる温かいひとときとなった。

去る9月2日、北海道教務支庁にて奥村尚人教区長を祭主に「教区功労者合祀慰霊祭」がつとめられ、第14代教区長を歴任された藤田文雄前会長が合祀された。昨年は大教会での一年祭と日程が重なったため、本年の合祀となったものである(当日は元主事・元支部長を併せ、計4柱が合祀された)。



北海道教区合祀慰霊祭
藤田文雄前会長様合祀

お知らせ

第31回女子青年大会 11月1日(日) 10時00分
月次祭 新穀感謝祭 15日(日) 9時30分
秋季霊祭 月次祭終了後
少年会冬のお楽しみ会 23日(月祝) 10時00分

第31回

女子青年大会

友達誘って おやさとちばへ
～ 伝えよう 私たちから み教えを ～

11/1 日

式典 ▶ 午前10時 本部中庭 <受付開始> 午前9時
記念行事 ▶ 式典終了後 支部の時間 ～話そうみんな～
別席 ▶ 午前7:30～9:30 / 午後正午～1:30 午後 時30分

記念行事 / おやさとマルシェ
時間 / タづとめ後～午後8時
場所 / 東・西泉水プール前広場 お茶所

10/31 ±

誰かの心を温める言葉を

にをいがけは必ず親神様に届く

九月祭典の模様



涼しげな秋の風を感じるようになった9月15日、月次祭には収穫の秋を象徴するかのようにな、たくさん野菜が部内、教信者からお供えに上がり、神前には盛り切れない程の秋の実りが所狭しと並んでいた。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話の前に辞令交付があり、新たに清真布分教会の渡部はづき会長夫人がおつとめ奉仕員に登用され、大教会長から辞令を受け取った。

講話には大教会長が壇上に上がり、「私が務めた9月前半の食堂ひのきしんには、約11名が参加され、3人1組で洗い物をしていたチームの中に、60代の男性がいました。この人は、『僕の所属教会に夕張の人、毎月来てます』って話し、清真布の信者の熊谷明人さんが、毎月その方の教会と一緒に月次祭をして、にをいがけも一緒に出て

……実は、その時の第一発見者というのが、炊事本部の調理師さんだったんですよ。

また他の方で、喜んでひのきしんを務めてた60代の女性。この方は夕張炭鉱で生まれた人で、閉山により愛知県に移り、お道の人と結婚。でも、思った信仰生活が出来ず、色々あって娘3人を連れて別れる事になったんです。大和郡山に移住して、数十年お道から離れていました。

去年から今年にかけて、何かひのきしんがしたいと思って、探したら大阪で子ども食堂をやっているご家庭があった。よくよく住所を見たら、天理教の布教所がやってたんです。『ああ、神様がある』と思って嬉しくて、子ども食堂を手伝い、布教所の月次祭もお参りするようになった。やっと最近、父の所属だった佐野原大教会から修養科に行けて、食堂ひのきしんのお声がかかって今回来たとのことでした。

根掘り葉掘りと、この方の人生を話してくれて。たくさんたくさん苦労してきたから、誰よりも神様を感じられるんですね。そして、やっと神様の前でまた手を合わせることができる、この嬉しさはあなただけのものですね。この嬉しさは忘れないね。とそんな

話を僕と2人でしたんですよ。

今月の第1週は教会長布教実動週間でした。夕張では布教部で声がけをしてくれて、たくさんの方の教会長さんたちがにをいがけに動いてくださりました。私も1日から8日まで天理時報社の看板の下で神名流しをさせていただきました。私は神名流しをする拍子木の音が聞こえる、ということは絶対にこの姿を見た、この音を聞いた誰か一人は絶対に励ましている。勇気をもらつてると信じてます。

本部の真柱宅にひのきしんに行った時に、本部の先輩から『にをいがけに行こう』って誘われて、天理駅で神名流しと路傍講演をさせていただきました。

『ご通行中の皆様、ただいまから世の中の方々のお役に立ちたいと思って、人様が助かるためのお話を、精一杯務めさせていただきます、天理教の布教師です。どうぞよろしく願います。』

皆様、生きてることは素晴らしいです。私達はずいぶん忘れたしまいますが、世の中には明日命の危ない、というところを頑張って乗り越えようとされてる方が大勢いらつしやいます。今、私の顔が見えますか？私の声は聞こえるでしょうか？目が見える、耳が聞こえる

えるというのは本当にありがたいことです。当たり前じゃない。私たち人間の体は、まるで奇跡みたいな仕組みで元気に生きてるんですね。この喜びを大事にしたいと、私は思います。これは当たり前じゃなくて、私がこうやって元気で話をしているのも、皆さんが私を見てるのも、この世界を始めた神様から体を借りてるからなんです。私たちの体は大事な借り物です。だから傷つけちゃいけないんです。私たちはみんな、神様の子供なんです。大事にしましょう。世の中が平和な世の中に、いい世の中に近づいていくには、自分のことも、他人のことも大事にできるような、心の優しい人がまだまだたくさん必要です。

優しい人が増えるためには、どうしたらいいでしょうか？どうか皆さん、生きてることを喜んで欲しいと思います。自分が生きて嬉しいうち、当たり前じゃないなと思えたなら、それを人に向けて、人に親切に、人に手助けをして、人に優しくしてあげましょう。私も自分が生きてることを喜んで、人を助けたいと思います。当たり前じゃないから、困ってる人がいたら、何にもできなくても声をかけたいと思います。

だから今日、私はここにきてい

ます。私のこの話で助かる人がいるかもしれないから、ここに来ています。これが私にできる人助けの一つ。

天理教の教えでは、私たちはみんな同じ神様から生まれた兄弟。命あるものは、みんな兄弟だから、他人を他人と思わないで、助け合っで欲しい。それが人間を作った神様の望みなんです。だから皆さん生きてることがすごいな、と喜ぶことができたなら、人に優しくしてください。

人にはそれぞれ自由な心があります。私たちには運命というものがあります。運命は目に見えませんが、同じように心も目に見えません。目には見えないけど、一人ひとり自由な心を使って、自分の運命を作っていくんです。私たちの自由な心の使い方、良いことに心を使ったか、人を悩ませること困らせることに心を使ってしまったか、この積み重ねが運命を作りま

す。自分のいい運命は、自分の心が言葉になったり行動になって、それが種のようになって良い運命の芽が出ます。反対に、私たちが人を傷つける言葉を、心を使い、それがつまり重なれば、悪い運命が咲いてしまうんです。運命は目には見えません。だけど私たちの心はあります。どうか皆さん心の

使い方で、運命を作っていくましよう。

皆さんは自分の、家族の幸せをどうやって守るんですか？どうやって自分と家庭の幸せを作り出すか？自分が頑張れば守られますか？それは外から壊されることもあるんじゃないでしょうか？じゃあどうしたら、自分と自分の家族が守られる運命を作れるんでしょうか？その運命ということ、ただ一つ、私が天理の神様から聞いている、本当のことをお話しします。

私たちは何回も何回も生まれ変わって、今を生きています。前の人生も、次の人生だってあります。この世界で私たちは何度も何度も生まれ変わりながら、幸せになろうとしています。生まれ変わる前のことは覚えてないかもしれない。私の覚えてない良いことも悪いこともあります。今生は身に覚えがないけど、嫌なことが起きてくるな。こんなことだつてあります。だけど運命は作っていくことができます。今日から明日から、心を優しくして人に親切にすることができれば、それが皆さん自分と自分の家族を守る運命を作る種になります。心一つ、言葉一つ、笑顔一つです。

生きてることに喜びを感じていますか？そして自分と自分の家庭を幸せにしたい、と思いますよね。じゃあ笑顔で他人に向かって優しく親切に、目の前の人を励まして支えて、自分が良い心を使えるように生きて欲しいと思います。たつた一つのありがたうの言葉が、人を支えることがあります。たつた一つの笑顔が、人を包むことがあります。どうか皆さん優しい心になつて身近な人を優しくさで包んであげてください。今日はお話を聞いてくださり、ありがとうございました。』

土砂降りの中で先輩と、にをいがけさせてもらいました。にをいがけは必ず親神様に届くし、絶対に誰かの心を温めることはできません。どこでやろうと、絶対に誰かの心を励まして助けることができます。自信を持つて神名流し一つ、ゴミ拾い一つ、させていだきたいなと思います。

4日間、教人資格講習で、教典の先生をしました。期間の短い中、なるべく分かりやすく伝えようとして一生懸命務めたつもりです。そのおかげか、どんどん熱心に話を聞いてくれるようになり、練りあい中にも質問してくれる人が増えま

した。

嫁ぎ先に仏壇しかない女性の方が、これでいいんでしょうか、と質問してこられました。『大丈夫、お仏壇は霊様なので、ありがたうの気持ちで拜んでいれば、分かってくれますよ。そして親神様に向かって手を合わせたいと思ったら、お家でも窓からお日様見えるところに行つて、おつとめしたら十分教会でおつとめをしたのと同じように、神様は受け取ってくれるから大丈夫ですよ。』そう伝えると、その言葉を聞いて楽になりました。やつてみます。と話してくれました。

最後の授業が終わつて教室を出ると、30代ぐらいの若い男性が思い詰めた顔をして、『先生、僕は間に合いますか』つて言った。これはきつと何か過去に償いたいようなことがあるんじゃないか。私は委細を聞かず、『絶対間に合う。今日から心を変えたら、神様はね、悪いものも消してくれるし、良いものを残してくれる。間に合うよ。みんな消したい過去、消せない過去があつたはずだよ。だけど教祖は導いてくれた。これから先でも間に合うよ』つて。そしたらその男性、泣いて喜んで『頑張ります』と話してくれました。

先月おちばに帰つてから、おじ

ばに残つて教人講習の先生、食堂ひのきしんも味わさせていたいただいて、本当に勉強させていただいて、ありがたい日々を過ごしました。』と話された。

祭典後には、多くのお供えに上がった秋の実りを、大教会長夫妻が手ずから参拝者にお配りし、思い思いに受け取つて笑顔で帰路に着いていた。

庶務部 9月

▽本部食堂ひのきしん

藤田 大和 (夕張) 11日

阿部 恭子 (夕張) 12、15日

▽諸所教養掛

10月 藤田 豊 (幌都)

大教会日誌抄 9月

1日 たすけ推進会議、役員会議

4日 岩見沢組・組例会

14日 月次祭準備

15日 月次祭

19日 会長夫妻、札美月次祭

20日 婦人会夕張支部総会

25日 会長夫妻、おちばへ

26日 本部月次祭、遥拝式

27日 本部秋季霊祭

会長、かなめ会

夫人、本部婦人会例会

28日 全教一斉にいがけデー(30日)

夫人、婦会

29日 会長、本部神殿当番

30日 会長、婦会